

令和8年度

全国学力・学習状況調査結果の
分析及び説明

札幌市立二条小学校

1. 国語：観点別「成果・課題・改善点」

	知識・技能	思考・判断・表現
成果	○漢字や言葉の使い方の定着 漢字の書き直し（「みじかい」83.2%、「ふしぎ」64.6%）など、言葉の基礎知識を問うテストの平均正答率は71.5%（全国平均62.0%）と、全国を大きく上回った。 ○文章の種類や仕組みの正しい理解 説明文などの文章の特徴を理解する問題や、言葉と言葉のつながりをメモに整理して読み取る問題でも、高い理解力を示している。	○「読むこと」の力と経験を結び付けた表現力 「読むこと」領域の正答率が77.0%と高く、文章を読んで理解したことに自分の経験を関連付けて考えをまとめる記述問題では88.5%という表現力も身に付いている。 ○表現の工夫とその効果を捉える分析力 「話すこと・聞くこと」領域において、動画や音声の表現上の工夫やその効果を読み解く設問で、全国を10ポイント以上上回る分析力を示している。
課題	○情報同士の関係性(理由や事例)の把握 「考えとそれを支える理由や事例など、情報同士の関係を理解する問題」の正答率が51.3%と、知識・技能問題に比べ低い結果となった。 ○文章の要点を整理する力 単文での語彙理解に比べ、文章全体の中で「主となる主張」と「それを補足する具体的な理由・事例」の関係を正しく整理する力に課題がある。	○「書くこと」領域における根拠の引用 「書くこと」領域の正答率が他領域に比べて低く、特に「集めた情報から必要な根拠を抜き出し、引用して書く問題」に課題が見られる。 ○話の内容を見通す「組み立てメモ」の活用 話の中心を明確にするための「構成的なメモの工夫」について、全体の組み立てを吟味する手立ての強化が必要。
改善点	○情報を可視化して整理する学習 単語や漢字の暗記にとどまらず、文章を読む際に「どれが主張で、どれが理由・事例か」を視覚的に整理する学習活動を取り入れる。 ○接続語に着目した読解力の向上 「なぜなら」「たとえば」「したがって」などの接続語に注目し、文や段落のつながりを意識して読み解く学習を行う。	○「組み立てメモ」を作成する学習 文章作成や発表の前に組み立てメモを作成し、友達同士で読み合って推敲・修正する活動の充実を図る。 ○資料や本文から引用する力の獲得 複数の情報から自分の考えに必要な根拠を的確に選び出し、引用する学習機会を設け、文章を推敲する場面を授業に取り入れる。

【結果から見えてきた成果と課題】

漢字や語彙などの言葉の基礎知識がしっかりと身に付いており、文章を正確に読み解く力が優れている。家庭での豊富な読書環境にも支えられ、本や文章から読んだ内容と「自分自身の体験や思い出」を重ね合わせて考えを表現する記述問題では、全国平均を大きく上回る豊かな表現力を発揮した。

一方で、文章の中で「筆者が一番伝えたいこと」と「その理由や具体例」の関係を整理して読み取ることや、資料から必要な根拠を抜き出して自分の文章に上手に取り入れて書く（引用する）ことに課題が見られた。また、書く前に「組み立てメモ」を整理する意識をさらに高める必要がある。授業では、文章や作文を書く前に「組み立てメモ」を作成して友達同士で見せ合う活動を取り入れます。また、資料の言葉を効果的に引用して説得力を高める具体的な書き方を指導するとともに、タブレットを活用して自分の文章を読み返し、より分かりやすく直す（推敲する）習慣を育てていきたい。

2. 算数:観点別「成果・課題・改善点」

	知識・技能	思考・判断・表現
成果	○小数や分数、基本の計算スキル 小数の仕組みを理解して最も大きい数を作る問題で全員正解を達成。また、数直線上の分数の位置や帯グラフの読み取りなど、基礎的な数やグラフを理解する力が身に付いている。 ○図形や体積の基本的な考え方 立方体の体積の求め方や、直方体の面形を正しく捉える問題など、図形や測定の基礎・基本が着実に身に付いている。	○言葉や式を使って説明する力 分数の大きさの違いを言葉で説明する問題や、箱の求め方を言葉と式で記述する問題など、自分の考えを文章で伝える問題で力を発揮した。 ○条件に合わせて、筋道立てて答えを導く力 アンケート結果の間違ひを見付けたり、時間の計画から使える時間を求めたりする問題など、身近な場面の課題を解決する力が育っている。
課題	○割合の関係を正しく図や式に表す力 「何倍になっているか」という割合の関係を正しく表している図を選ぶ問題や、割合から元の大きさ（基準量）を求める問題に課題がある。 ○複雑に組み合わさった表から数字を読み取る力 縦と横の項目が複雑に交差する「二次元の表」から、条件に合う人数を正しく読み取ることが苦手。	○「式の意味」を言葉と結び付けて捉える力 混み具合などを比べ単位量当たりについて、「商が何を表しているのか」という式の意味を判断する力を伸ばすことに課題がある。 ○図や数直線を自ら活用する力 図や数直線を見れば理解できるものの、難しい問題に出会ったときに、自分で描いて考えるなど、進んで活用することに個人差が見られる。
改善点	○図や数直線を使って可視化する 「基の大きさ」と「比べたい大きさ」の関係を、数直線や図を使って可視化し、何倍になっているかを視覚的に理解できる場面を増やす。 ○表やスケジュールを読み解くスキルの向上 アンケート結果や計画表など、行と列が交差する身近な表から、必要な数字を正しく探して読み出す活動を授業に取り入れる。	○立式の根拠を説明し合う活動の充実 計算して答えを出すだけでなく、式の意味を言葉にして伝え合う活動を取り入れる。 ○図を描いて考える習慣を身に付ける 難しい問題に対して、関係図や線分図を自分で描いて整理できるよう、授業の中で図を使って解く機会の充実を図る。

【結果から見えてきた成果と課題】

小数や分数などの計算の仕組みが定着しており、基礎的な計算力・数量感覚がしっかりと身に付いている。さらに、「なぜその答えになるのか」「どうやって求めたのか」を言葉や式を使って順序立てて説明する記述問題の正答率は全国平均を12ポイント以上も上回っており、筋道を立てて考える論理的な思考力がしっかりと育っている。

一方で、「基の大きさの何倍になっているか」という割合の関係を図や式に正しく表すことや、縦と横の項目が複雑に交わる表から必要な数字を正確に読み取る力に課題が見られる。また、割り算などの式について「その計算の答えが一体何を表しているのか」を言葉と結び付けて捉える力を養っていく必要がある。割合などのつまづきやすい問題では、数直線や関係図を使って「数量の関係を目で見える形」にして整理する学習機会の充実を図っていく。また、ただ計算するだけでなく「なぜこの式になるのか」を友達とお互いに説明し合う場面を設定し、難しい問題に出会ったときも「自分で図を描いて考えてみる」学習習慣を身に付けられるようにしていく。

3.「生活習慣や学習環境に関する質問」

【肯定的な回答(A:当てはまる B:どちらかといえば当てはまる)の割合】

質問項目	二条小学校	全国
自分にはよいところがある	92.1% (+6.5)	85.6%
友達との話し合いを通じて考えを深められる	90.4% (+4.7)	85.7%
ICTを用いてスライド作成や情報収集ができる	86.8% (+12.2)	74.6%
将来の夢や目標をもっている	86.0% (+4.2)	81.8%
困りごとや不安を先生や大人の人に相談できる	74.6% (+4.0)	70.6%
先生は自分のよいところを認めてくれている	93.8% (+2.4)	91.4%
課題の解決に向けて自分から取り組んでいる	81.6% (+4.0)	77.6%
学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている	85.1% (+3.6)	81.5%
授業で学んだことを実生活などに生かせると思う	84.3% (+3.5)	80.8%
学んだことを生かして自分の考えをまとめることができる	70.2% (-3.2)	73.4%
人と違う意見を言っても否定されないと思う	66.6% (-3.0)	69.6%
普段の生活の中で幸せな気持ちになる	88.6% (-3.9)	92.5%

※質問項目は一部を抜粋 ※ () 内の数値は全国との比較

【結果から見えてきた成果と課題】

◇日常生活における高い安心感

本校児童は、ご家族や学校の先生から自分のよさを認められている実感があり、自分にはよいところがある
と素直に思うことができているなど、教育目標の重点である「キラリかがやく二条」に向かって学校生活を送
ることができている。また、困ったときも大人に相談できるなど、日常生活において高い安心感が形成されて
いる。「将来の夢や目標をもっている」「授業の学びを実生活に生かそうとする」などの児童の割合も高く、
何事にも一生懸命に取り組み、未来の自分の姿を想像する前向きな姿が見られる。しかし、自己肯定感や周囲
との関係性が良好である反面、「人と違う意見を言っても否定されないと思う」についての肯定的な回答が7
割弱にとどまっている。「周囲との良好な関係や調和を大切にしたいからこそ、友達の意見を否定することを
避けたい」「間違えたらどうしよう」「変な意見だと思われるかも」という慎重さがうかがえる。本校児童
は、真面目で、周囲の期待にしっかり応えようとする意識が非常に高く育っている。そのため、日々の学校生
活や習い事・学習において「ちゃんとやらなければ」「課題を解決しなければ」という緊張感や多忙感を日常
的に抱えていることが考えられる。それらの緊張感からふっと一息つくような、ゆとりや幸福感を感じること
ができる場面を今後も増やしていく必要がある。

◇「集める・広げる力」と「自らの言葉で表現する力」のギャップ

「ICTによるスライド作成や情報収集」「話し合いで考えを深める」「課題解決に自ら取り組む」など、友達と
アイデアを出し合ったり、情報を探したりすることが非常に得意である。しかし、「学んだことを生かして自
分の考えをまとめることができる」になると、肯定的な回答率が下がる。多様な意見や情報の中から、不要な
ものを削ぎ落とし、自分自身の言葉で1つの結論を導き、それを表現する過程において、迷いや苦手意識を感じ
ている実態がうかがえる。本校児童が得意としているICT等を活用し、アウトプットの仕方を工夫するな
ど、今後は「自分の意見としてまとめる力」の育成に向けた支援が課題となる。